

# 2020年12月期 第2四半期業績 説明会資料

The AGC logo is displayed in a white rectangular box on the right side of the slide. It consists of the letters 'AGC' in a bold, blue, sans-serif font. A small red square is positioned at the top right corner of the letter 'G'.

AGC株式会社

2020年7月31日

Your Dreams, Our Challenge

<b>I. 2020年12月期第2四半期決算説明</b>	<b>P.3</b>
<b>■ 2020年12月期 第2四半期業績</b>	<b>P.4</b>
1. 業績のポイントと主要項目	<b>P.5</b>
2. セグメント別・地域別の状況	<b>P.13</b>
<b>■ 2020年通期業績見通し</b>	<b>P.21</b>
<b>II. コロナ禍における対応</b>	<b>P.29</b>
1. 収益改善施策の実施	<b>P.31</b>
2. 業務変革の加速	<b>P.36</b>
<b>付属資料</b>	<b>P.38</b>

# I . 2020年12月期 第2四半期業績

## 2020年12月期第2四半期（累計）：

（前年同期比）

コロナ禍影響額

売上高	6,545 億円	（▲829億円）	▲990 億円
営業利益	206 億円	（▲209億円）	▲365 億円

- 電子部材や液晶用ガラス基板、ライフサイエンス事業は好調
- コロナ禍の影響を受けた自動車用ガラスおよび建築用ガラス等の需要減少、販売価格下落により前年同期比減益

## 2020年12月期通期見通し：

（前年同期比）

コロナ禍影響額

売上高	13,500 億円	（▲1,680億円）	▲2,170 億円
営業利益	400 億円	（▲616億円）	▲875 億円

- ガラス、化学品でコロナ禍の影響を大きく受ける見通し

# 1. 業績のポイントと主要項目

# 2020年12月期 第2四半期業績

(億円)

	FY2019 1-2Q累計	FY2020 1-2Q累計	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)マイナス要因
売上高	7,375	<b>6,545</b>	▲ 829*	(+)電子部材、液晶用ガラス基板、ライフサイエンス製品の出荷増加 (-)建築用ガラス・自動車用ガラスの販売数量減少 建築用ガラス、東南アジアでのクロールアルカリ製品、液晶用ガラス基板の販売価格下落
営業利益	415	<b>206</b>	▲ 209	(+)電子部材、液晶用ガラス基板、ライフサイエンス製品の出荷増加 (-)建築用ガラス・自動車用ガラス製造設備の大幅な稼働調整に伴う製造原価悪化
税引前利益	426	<b>165</b>	▲ 261	
親会社の所有者に帰属する純利益	323	<b>114</b>	▲ 208	
為替レート (期中平均) JPY/USD	110.05	<b>108.27</b>		
JPY/EUR	124.32	<b>119.30</b>		
原油(Dubai,期中平均) USD/BBL	65.45	<b>40.64</b>		

\* うち、為替差影響は▲136億円、連結範囲変更の影響は+56億円

# セグメント別業績 前年同期比較

(億円)

	FY2019 1-2Q累計 (a)		FY2020 1-2Q累計 (実績) (b)		増減 (b)-(a)		FY2020 1-2Q累計(5/18時点予想) (c)		増減 (b)-(c)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
	ガラス	3,752	74	2,942	▲ 208	▲ 810	▲ 281	2,800	▲ 215	+ 142
電子	1,246	60	1,386	174	+ 140	+ 114	1,400	170	▲ 14	+ 4
化学品	2,285	262	2,124	227	▲ 161	▲ 35	2,200	280	▲ 76	▲ 53
セラミックス・その他	404	20	382	14	▲ 22	▲ 6	400	15	▲ 18	▲ 1
消去	▲ 312	▲ 1	▲ 289	▲ 1	+ 24	▲ 0	▲ 300	0	+ 11	▲ 1
連結合計	7,375	415	6,545	206	▲ 829	▲ 209	6,500	250	+ 45	▲ 44

# コロナ禍影響 (2Q)

## ■ ガラス、化学品でコロナ禍影響を大きく受けた (2Q影響額：売上高▲880億円、営業利益▲330億円)

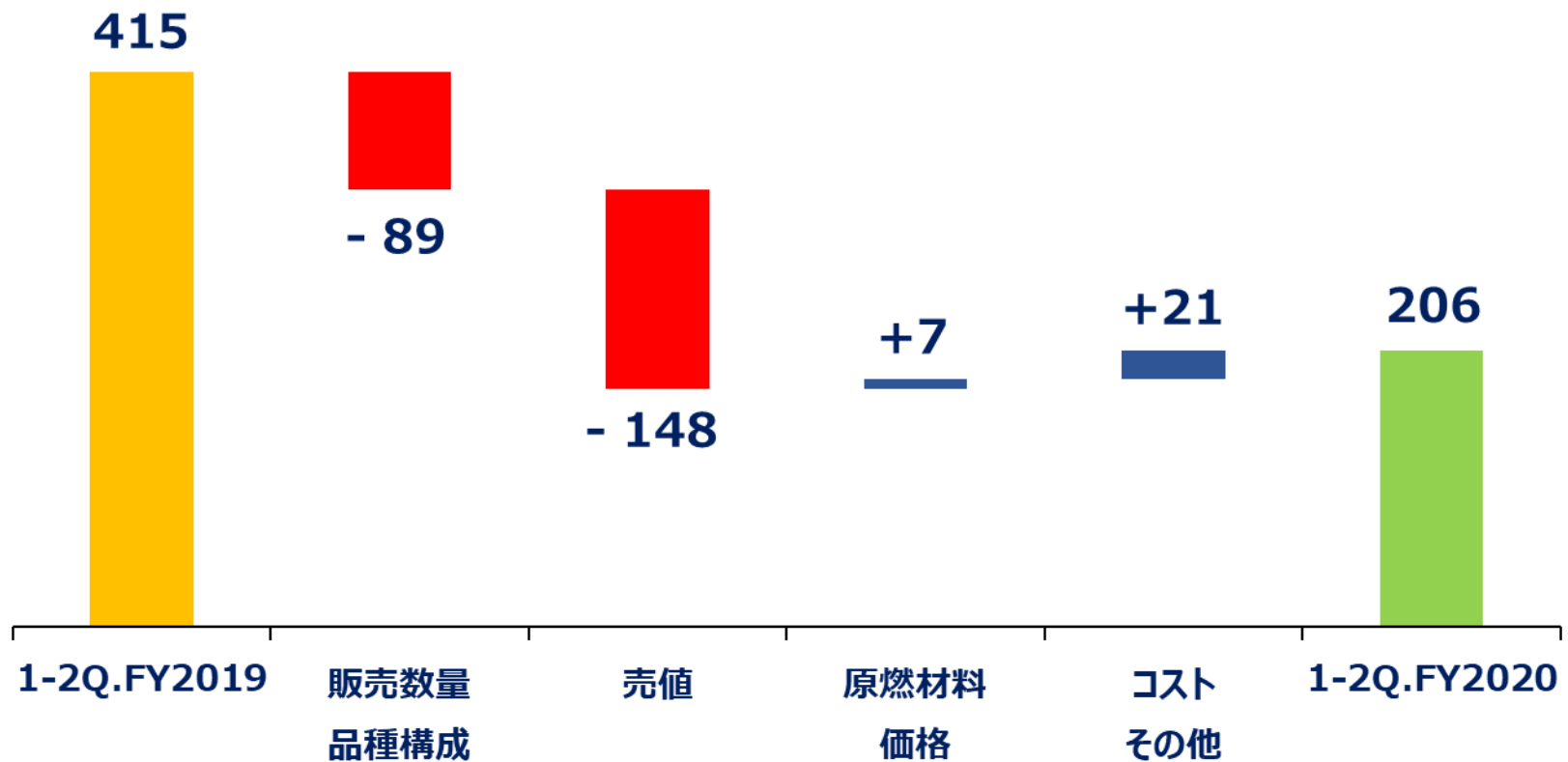
	1Q 影響額	2Q	2Q 影響額
<b>ガラス</b>	<b>売上高</b> ▲100億円  <b>営業利益</b> ▲30億円	<b>(建築用ガラス)</b> ・経済活動の制限が世界各国に広がり、需要が大きく減少 ・全ての地域で稼働調整実施により製造原価悪化 <b>(自動車用ガラス)</b> ・自動車生産は、中国が2月、西中欧・米州・タイが4月、日本が5月に底を打った ・日本・アジア：中国の出荷は回復。日本・タイ・インドネシアの出荷は1Q比で減少 ・米州・欧州：4月の出荷はほぼゼロ	<b>売上高</b> ▲620億円  <b>営業利益</b> ▲240億円
<b>電子</b>	<b>売上高</b> ▲10億円  <b>営業利益</b> ▲5億円	<b>(ディスプレイ)</b> ・液晶用ガラス基板は出荷に影響なし ・ディスプレイ用特殊ガラスはスマートフォン向けの需要減少 <b>(電子部材)</b> ・オプトエレクトロニクス及び半導体関連部材は出荷に大きな影響なし	<b>売上高</b> ▲30億円  <b>営業利益</b> ▲10億円
<b>化学品</b>	影響なし	<b>(クロールアルカリ・ウレタン)</b> ・アジア各国ロックダウン等により、5月以降、クロールアルカリ製品市況が急激に悪化 <b>(フッ素・スペシャリティ)</b> ・輸送機器・建設用途向けフッ素関連製品の需要が減少 <b>(ライフサイエンス)</b> ・影響なし	<b>売上高</b> ▲230億円  <b>営業利益</b> ▲80億円



# 営業利益増減要因分析(1-2Q.FY2020 vs. 1-2Q.FY2019)

前年同期比 209億円減益

(億円)



## ■ コロナ禍で現金及び現金同等物を約2,500億円積み増し、一時的にD/Eが上昇

(億円)

	2019/12	2020/6	増減	
現金及び現金同等物	1,138	<b>3,826</b>	+ 2,688	
棚卸資産	2,912	<b>2,936</b>	+ 24	
有形固定資産・無形 資産及びのれん	13,516	<b>13,524</b>	+ 8	← 為替差影響 ▲353億円
その他	5,788	<b>5,064</b>	▲ 724	
<b>資産合計</b>	<b>23,354</b>	<b>25,350</b>	+ 1,996	← 為替差影響 ▲555億円
有利子負債	6,028	<b>8,919</b>	+ 2,891	
その他	4,500	<b>4,260</b>	▲ 240	
<b>負債の部</b>	<b>10,528</b>	<b>13,179</b>	+ 2,651	
親会社の所有者に 帰属する持分合計	11,571	<b>10,935</b>	▲ 636	
非支配持分	1,255	<b>1,237</b>	▲ 18	
<b>資本の部</b>	<b>12,826</b>	<b>12,171</b>	▲ 655	
<b>負債及び資本合計</b>	<b>23,354</b>	<b>25,350</b>	+ 1,996	
<b>D/E比率</b>	0.47	<b>0.73</b>		

(億円)

	1-2Q累計	
	FY2019	FY2020
税引前利益	426	<b>165</b>
減価償却費及び償却費	695	<b>722</b>
運転資金増減	▲ 183	<b>37</b>
その他	83	<b>191</b>
<b>営業活動によるCF</b>	<b>1,020</b>	<b>1,115</b>
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 1,212</b>	<b>▲ 1,044</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>▲ 191</b>	<b>70</b>
有利子負債増減	394	<b>2,801</b>
支払配当	▲ 133	<b>▲ 133</b>
その他	▲ 26	<b>▲ 6</b>
<b>財務活動によるCF</b>	<b>235</b>	<b>2,663</b>
現金等に係る換算差額	▲ 25	<b>▲ 45</b>
<b>現金等の増加額</b>	<b>18</b>	<b>2,688</b>

1-2Q累計 (億円)

FY2019 FY2020

設備投資額	1,011	1,116
ガラス	357	282
電子	259	364
化学品	386	465
セラミックス・その他	9	6
消去	▲ 0	▲ 0
減価償却費	695	722
ガラス	264	260
電子	228	238
化学品	182	214
セラミックス・その他	21	10
消去	▲ 0	▲ 0
研究開発費	229	219

### 【主な設備投資案件】

- ・車載ディスプレイ用カバーガラス中国投資（ガラス）
  - ・ディスプレイ製造窯修繕（電子）
  - ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
  - ・バイオ医薬品原薬製造工場買収（化学品）
  - ・合成医薬能力増強（化学品）
  - ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- など

### 【主な減価償却費増加要因】

- ・アサヒマスケミカル 発電所  
(19Q2稼働開始)
- など

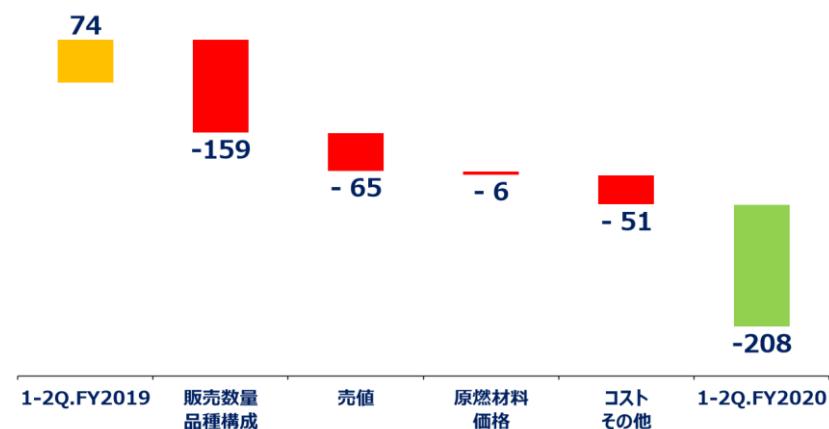
## 2. セグメント別・地域別の状況

(億円)

	1-2Q累計		増減
	FY2019	FY2020	
<b>売上高</b>	3,752	<b>2,942</b>	▲ 810*
建築用ガラス	1,747	<b>1,507</b>	▲ 240
自動車用ガラス (セグメント間)	1,997	<b>1,423</b>	▲ 573
	9	<b>12</b>	
<b>営業利益</b>	74	▲ 208	▲ 281

\* うち、為替差影響は▲97億円、連結範囲変更の影響は+3億円

## 営業利益増減要因分析



### 〔売上高〕減収

#### 建築用ガラス

- コロナ禍の影響による出荷減に加え、欧州などで販売価格が下落

#### 自動車用ガラス

- コロナ禍の影響により世界的に自動車生産台数が減少し、当社グループの出荷は減少

### 〔営業利益〕減益

#### 建築用ガラス

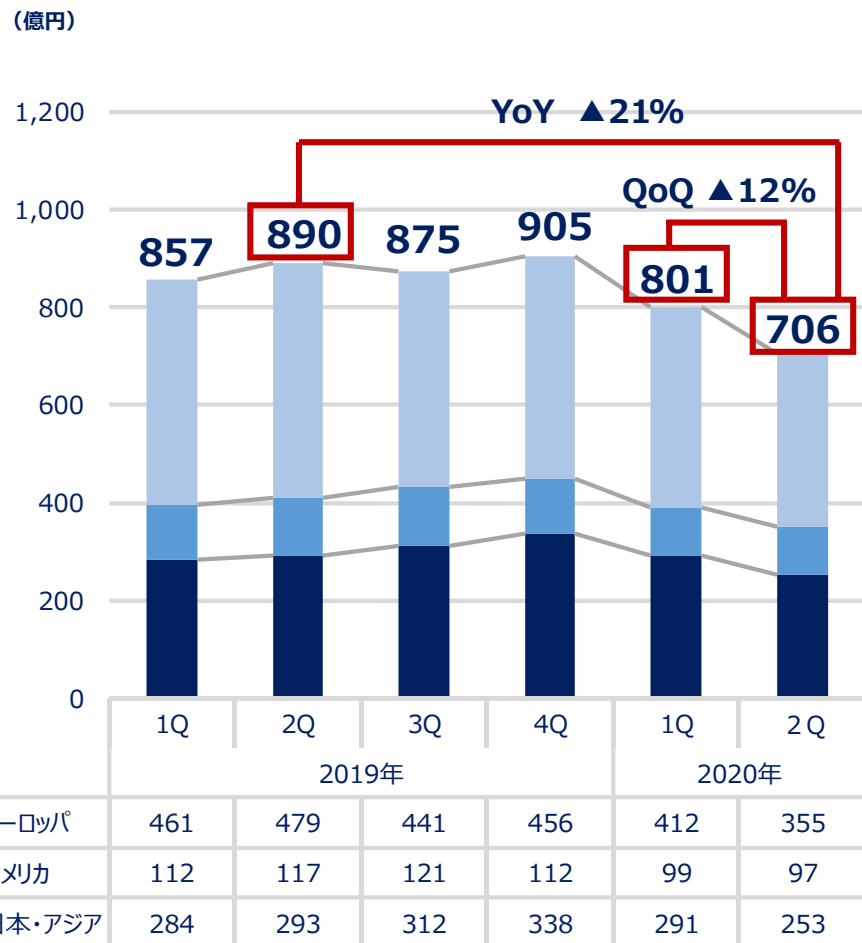
- 出荷減、販売価格下落に加え、需要減少に伴う製造設備の大幅な稼働調整により製造原価悪化

#### 自動車用ガラス

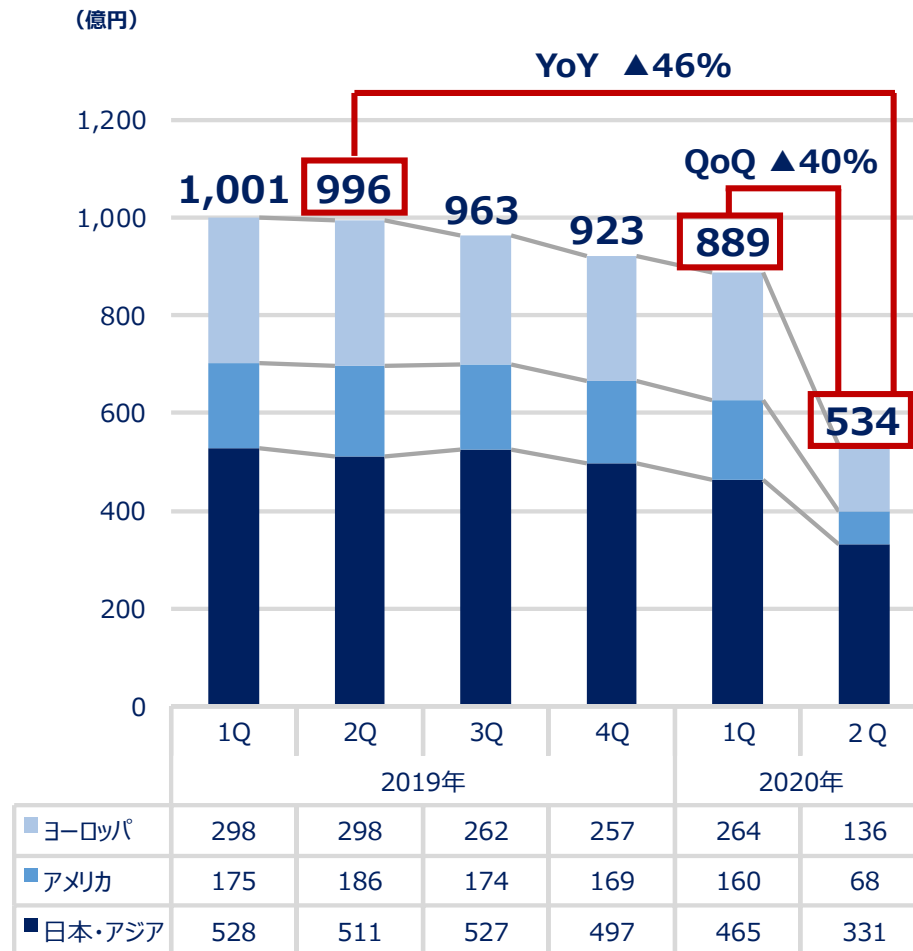
- 出荷減に加え、需要減少に伴う製造設備の大幅な稼働調整により製造原価悪化

# (ご参考) ガラスセグメント 売上高推移

## 建築用ガラス売上高推移



## 自動車用ガラス売上高推移

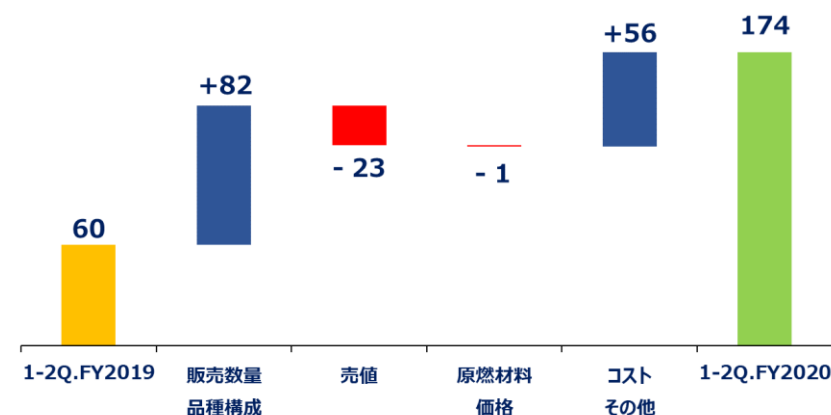


(億円)

	1-2Q累計		増減
	FY2019	FY2020	
<b>売上高</b>	1,246	<b>1,386</b>	+ 140*
ディスプレイ	838	<b>866</b>	+ 28
電子部材 (セグメント間)	345	<b>485</b>	+ 140
	62	<b>34</b>	
<b>営業利益</b>	60	<b>174</b>	+ 114

\* うち、為替差影響は▲7億円、連結範囲変更の影響は+29億円

## 営業利益増減要因分析



### 〔売上高〕増収

#### ディスプレイ

- 液晶用ガラス基板の出荷は増加、価格は下落幅縮小
- ディスプレイ用特殊ガラスはDragontrail®出荷減少

#### 電子部材

- オプトエレクトロニクス用部材およびEUV露光用フォトマスクブランクスなどの半導体関連部材の出荷が増加
- Taconic社プリント基板材料事業等の新規連結が寄与

### 〔営業利益〕増益

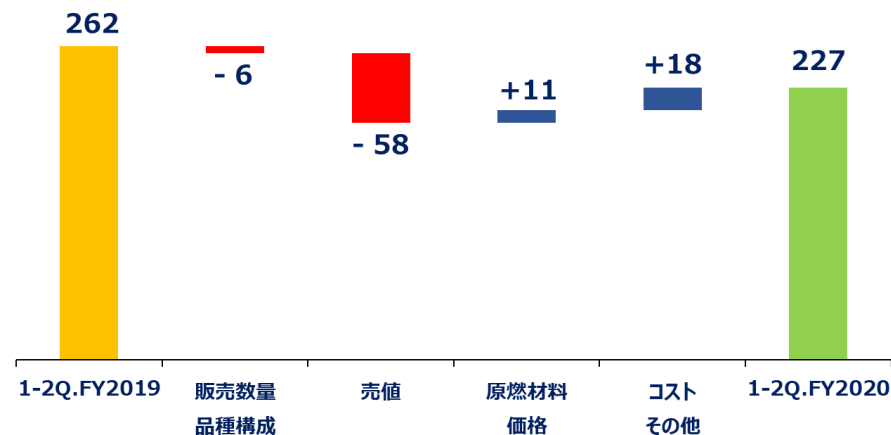
- オプトエレクトロニクス用部材およびEUV露光用フォトマスクブランクスなどの半導体関連部材の出荷が増加



(億円)

	1-2Q累計		増減
	FY2019	FY2020	
<b>売上高</b>	2,285	<b>2,124</b>	▲ 161*
クローラルカリ・ウレタン	1,415	<b>1,254</b>	▲ 161
フッ素・スペシャリティ	586	<b>529</b>	▲ 57
ライフサイエンス	278	<b>333</b>	+ 55
(セグメント間)	7	<b>8</b>	
<b>営業利益</b>	262	<b>227</b>	▲ 35

## 営業利益増減要因分析



\* うち、為替差影響は▲30億円 連結範囲変更の影響は+24億円

### 〔売上高〕 減収

クローラルカリ・ウレタン

- 東南アジアでの苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂の販売価格が下落

フッ素・スペシャリティ

- 輸送機器・建設用途向けフッ素関連製品の出荷が減少

ライフサイエンス

- 合成医薬品、バイオ医薬品の受託件数が増加

### 〔営業利益〕 減益

- 東南アジアでの苛性ソーダ・塩化ビニル樹脂の販売価格が下落

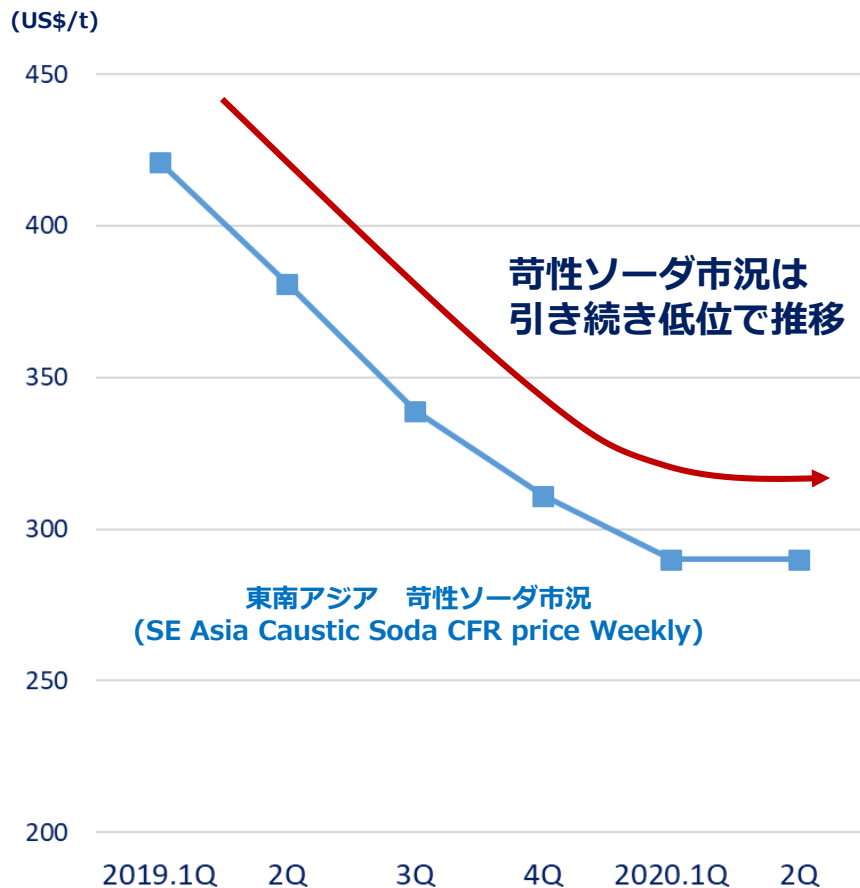
<営業利益構成比\*>

	19/1-2Q	20/1-2Q
クローラルカリ・ウレタン	6割	4割
フッ素・スペシャリティ	3割	4割
ライフサイエンス	1割	2割

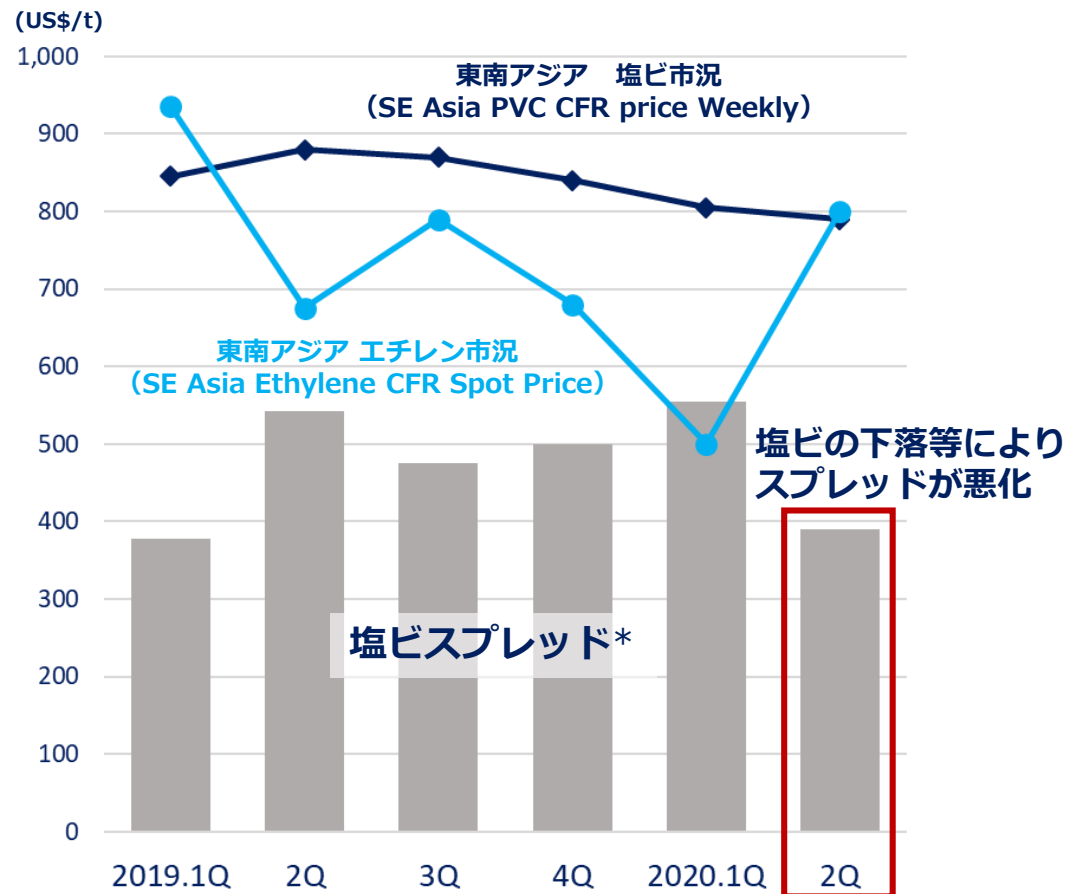
\* 共通費用配賦前

# (ご参考) 東南アジア 苛性ソーダ、塩ビ市況

## 苛性ソーダ市況



## 塩ビ市況



出典：Bloombergデータをもとに作成

\*塩ビスプレッド：塩ビ市況 - (エチレン市況×0.5)で計算

## ■ コロナ禍の影響は限定的で順調に業績拡大

### 戦略事業売上高推移 (億円)

#### 主な製品・事業

##### モビリティ

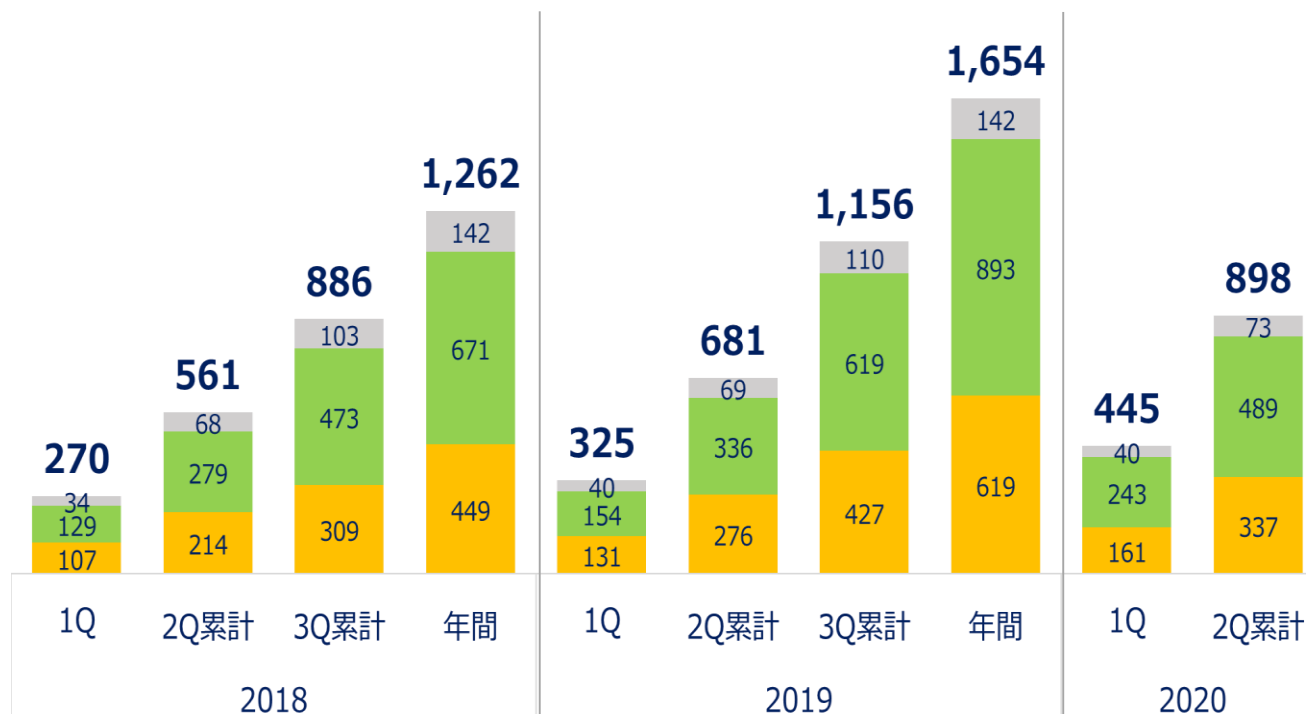
- ・車載ディスプレイ用  
カバーガラス
- ・モビリティ新規部材  
(含5G通信)

##### エレクトロニクス

- ・半導体関連部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・次世代高速通信用部材
- ・エレクトロニクス用フッ素製品

##### ライフサイエンス

- ・合成医薬
- ・バイオ医薬



	2018	2019	2020
戦略事業 営業利益	36	84	144
営業利益 貢献比率	12%	20%	70%

(億円)

# 地域別業績 前年同期比較

	1-2Q累計		(億円)
	FY2019	FY2020	増減
<b>売上高</b>	7,375	<b>6,545</b>	▲ 829
日本・アジア	4,775	<b>4,431</b>	▲ 344
アメリカ	871	<b>682</b>	▲ 189
ヨーロッパ	1,729	<b>1,433</b>	▲ 296
<b>営業利益</b>	415	<b>206</b>	▲ 209
日本・アジア	475	<b>419</b>	▲ 56
アメリカ	37	▲ <b>17</b>	▲ 54
ヨーロッパ	99	▲ <b>24</b>	▲ 123
地域共通費用	▲ 196	▲ <b>172</b>	+ 24

為替影響：  
▲ 136億円

新規連結影響：  
+ 56億円

# 2020年通期業績の見通し

# 2020年 通期業績見通し

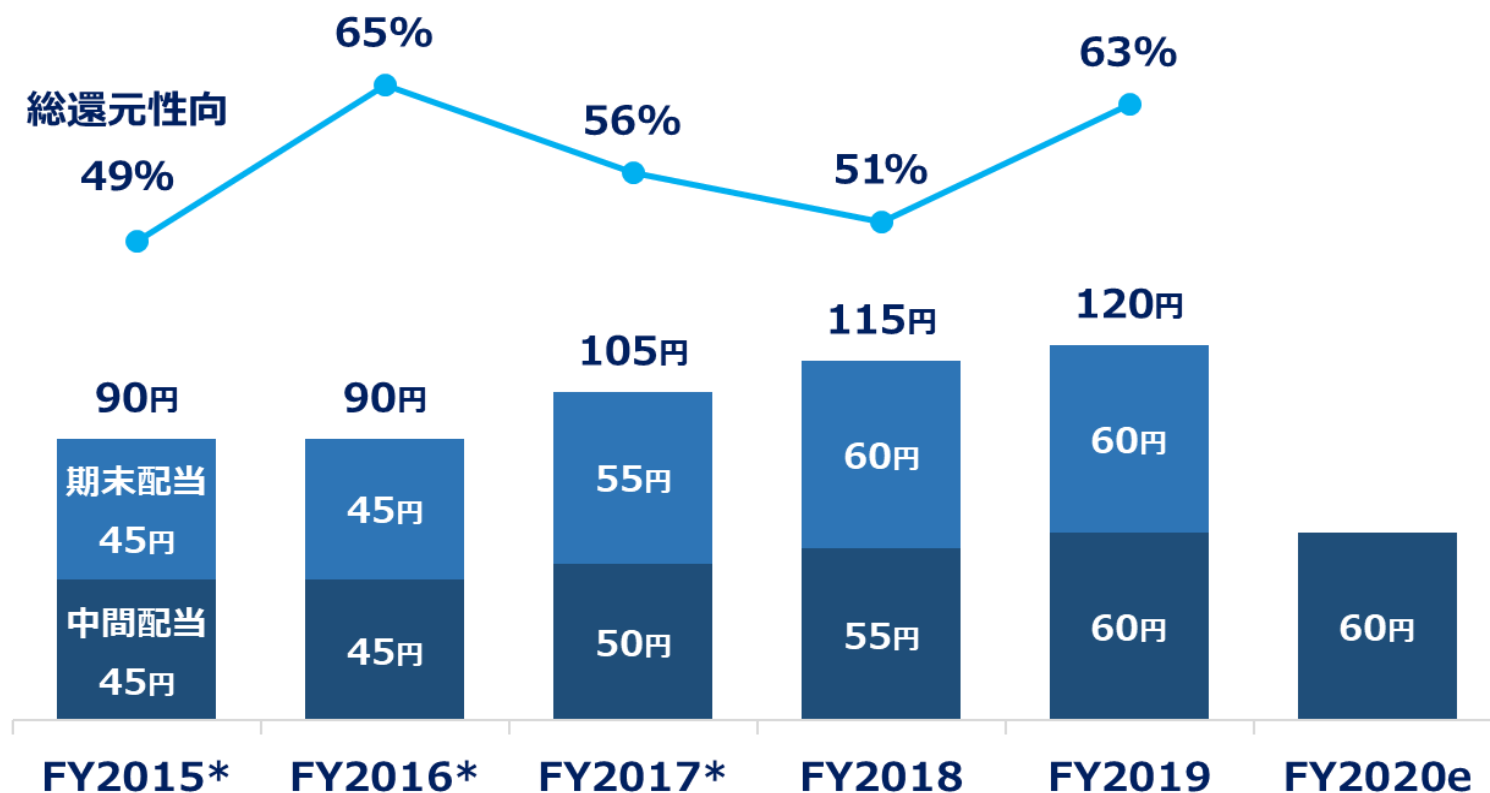
- コロナ禍の影響が大きく前年比減収減益
- 構造改善策等による追加的な費用計上額が未定のため、税引前利益以下の項目については、合理的な算定が可能となった時点で開示

(億円)

	FY2019	FY2020 (2/5予想)	FY2020 (5/18予想)	FY2020 (今回予想)	コロナ禍 影響額
	通期	通期	通期	通期	通期
売上高	15,180	15,500	—	13,500	▲2,170
営業利益	1,016	1,200	—	400	▲875
税引前利益	762	1,070	—	未定	
親会社の所有者に 帰属する当期純利益	444	690	—	未定	
1株当たり配当 (円)	120	130	—	未定	
営業利益率	6.7%	7.7%	—	3.0%	
ROE	3.9%	6.0%*	—	—	
為替レート (期中平均)					
JPY/USD	109.1	110.0	—	109.1	
JPY/EUR	122.1	120.0	—	119.6	
原油 (Dubai,期中平均)					
USD/BBL	63.5	60.0	—	42.8	
エチレン(CFR SEA)					
USD/MT	823	800	—	600	

\* FY2020予想のROEは、2019年12月末時点の親会社の所有者に 帰属する持分合計を使用しています。

- 現在の1株あたり年間配当額以上の継続を基本に、自社株取得を含めた連結総還元性向50%以上を継続する方針
- 期末配当は、構造改善策等に伴う追加的な費用計上の有無や今後の事業環境や業績見通しを踏まえて決定する予定



\*2015年～2017年の一株あたり配当金は2017年7月の株式併合の影響を勘案し算出

# セグメント別 売上高/営業利益見通し（1）

## ■ ガラス、化学品でコロナ禍の影響を大きく受け、減収減益となる見通し

(億円)

	FY2019 通期 (a)		FY2020 通期予想（今回） (b)		増減 (b)-(a)		FY2020 通期予想(2/5発表) (c)		増減 (b)-(c)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
	ガラス	7,429	93	5,900	▲ 400	▲ 1,529	▲ 493	7,200	170	▲ 1,300
電子	2,767	256	2,900	330	+ 133	+ 74	3,000	310	▲ 100	+ 20
化学品	4,758	630	4,500	450	▲ 258	▲ 180	5,100	700	▲ 600	▲ 250
セラミックス・その他	832	39	850	20	+ 18	▲ 19	900	20	▲ 50	+ 0
消去	▲ 606	▲ 0	▲ 650	0	▲ 44	+ 0	▲ 700	0	+ 50	+ 0
連結合計	15,180	1,016	13,500	400	▲ 1,680	▲ 616	15,500	1,200	▲ 2,000	▲ 800



- ガラス事業：2Qを底として稼働は改善傾向にあるが、需要の完全回復に時間がかかる見通し。特に自動車用ガラスの需要回復には時間を要す

2020年 3Q-4Q累計				コロナ禍 影響額	
ガラス	<b>(建築用ガラス)</b>				売上高 ▲690億円  営業利益 ▲290億円
	・経済活動の再開を受けて2Qを底に緩やかな回復を見込む				
	●フロート板ガラス出荷数量見通し (YoY)				
		日本・アジア	北米	欧州	
	3Qe	▲10%台半ば	▲10%台半ば	▲1桁半ば%	
	4Qe	▲約1割	▲微減	▲約1割	
	<b>(自動車用ガラス)</b>				
	・日本・アジア：経済活動の再開を受けて当社出荷は2Qを底として緩やかに回復 中国、日本は回復基調だが、タイ・インドネシアは下期も引き続き低調				
	・米州：当社出荷は4月～5月を底に緩やかに回復。足元、新型コロナウイルス蔓延による先行き不透明感があり、下期以降も引き続き低調				
	・欧州：経済活動の再開を受けて当社出荷は4月を底に5月以降緩やかに回復も、下期以降も引き続き低調				
●自動車生産台数見通し (YoY)※					
	日本	北米	欧州		
3Qe	▲20%	▲2%	▲9%		
4Qe	▲12%	▲5%	▲7%		
※IHS Markit 2020/7/16 データ					

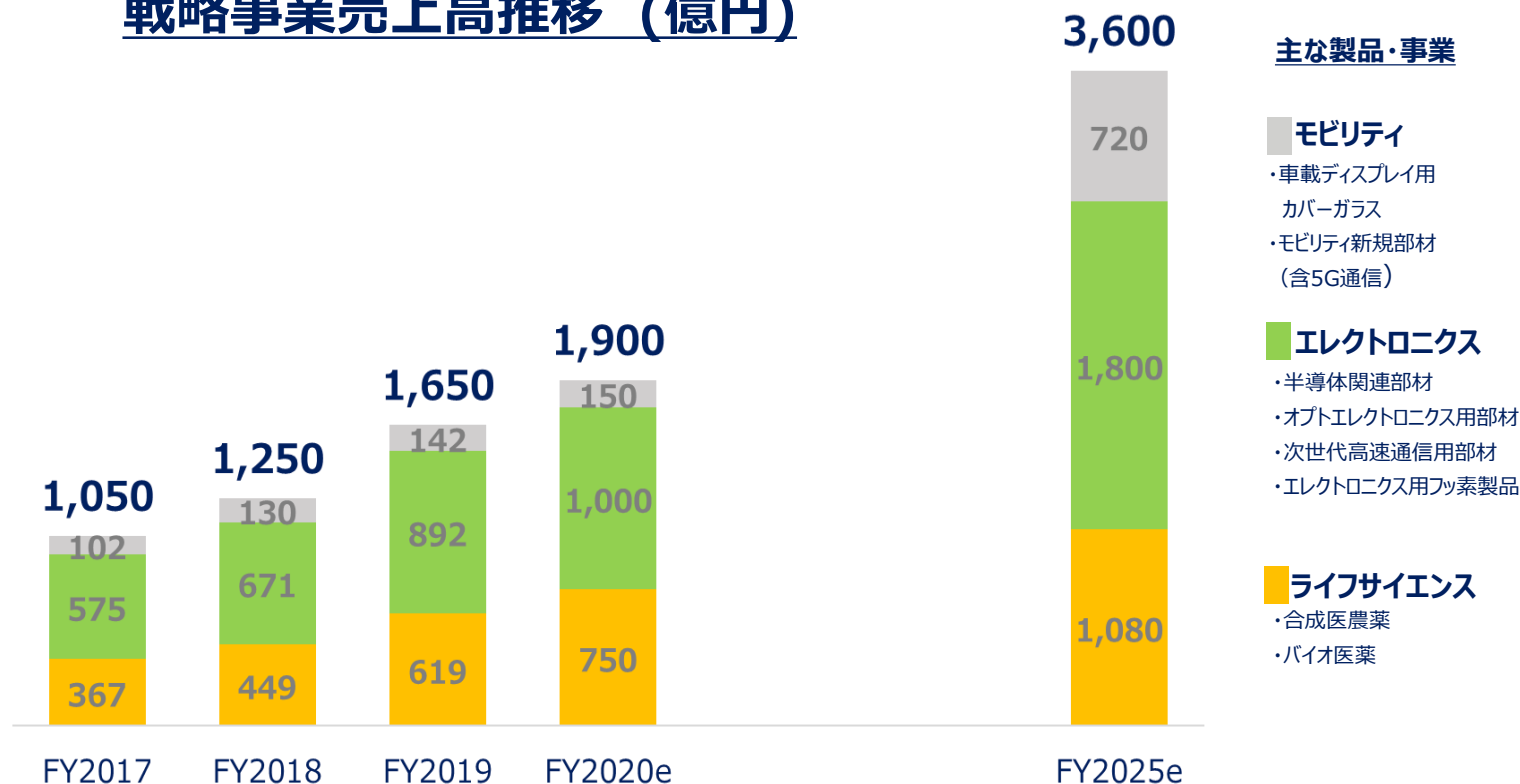
# 各事業の見通し (2)

- 電子：液晶用ガラス基板と電子部材は堅調に推移、スマートフォン用カバーガラスは需要減の影響を受ける見通し
- 化学品：ライフサイエンスは堅調。クロールアルカリ・ウレタンやフッ素・スペシャリティの業績が東南アジア経済減速や輸送機器の需要減少の影響を受け悪化

2020年 3Q-4Q累計		コロナ禍 影響額
<b>電子</b>	<p><b>(ディスプレイ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>液晶用ガラス基板は主要顧客の需要が堅調。出荷は前年比横ばい(3Q見通し(QoQ)： 出荷数量 横ばい、価格 前Qよりもマイルドな下落)</li> <li>ディスプレイ用特殊ガラスはスマートフォン向けの需要が減少</li> </ul> <p><b>(電子部材)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>半導体関連部材、オプトエレクトロニクス用部材は出荷に大きな影響なし</li> </ul>	<p>売上高 ▲110億円</p> <p>営業利益 ▲40億円</p>
<b>化学品</b>	<p><b>(クロールアルカリ・ウレタン)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジアの苛性ソーダ・塩ビ需要は緩やかに回復を見込む。ウレタン製品は、自動車産業及び建築向け需要が低迷</li> </ul> <p><b>(フッ素・スペシャリティ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディカルガウン向けや半導体産業向け等の製品は出荷堅調も、自動車産業・航空機産業・建設産業向けの需要が低迷</li> </ul> <p><b>(ライフサイエンス)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス関連ワクチン開発の新規受託もあり、堅調に推移</li> </ul>	<p>売上高 ▲380億円</p> <p>営業利益 ▲180億円</p>

- コロナ禍の影響は限定的で順調に業績拡大する見通し
- 5 / 18発表時から変更なし

## 戦略事業売上高推移 (億円)



### 主な製品・事業

- モビリティ**
  - ・車載ディスプレイ用カバーガラス
  - ・モビリティ新規部材 (含5G通信)
- エレクトロニクス**
  - ・半導体関連部材
  - ・オプトエレクトロニクス用部材
  - ・次世代高速通信用部材
  - ・エレクトロニクス用フッ素製品
- ライフサイエンス**
  - ・合成医薬
  - ・バイオ医薬

戦略事業 営業利益	120	210	265	300	900 (億円)
営業利益貢献比率	10%	17%	26%	75%	40%

## ■ 設備投資額、減価償却費とも2/5発表時の見通しから変更なし

	年間 (億円)	
	FY2019	FY2020e
<b>設備投資額</b>	<b>2,077</b>	<b>2,200</b>
ガラス	804	600
電子	558	810
化学品	690	770
セラミックス・その他	25	20
消去	▲ 1	0
<b>減価償却費</b>	<b>1,434</b>	<b>1,500</b>
ガラス	525	510
電子	473	510
化学品	394	440
セラミックス・その他	43	40
消去	▲ 1	0
<b>研究開発費</b>	<b>475</b>	<b>490*</b>

\* FY2020 2/5予想金額 530億円より変更

## Ⅱ. コロナ禍における対応

従業員およびその家族、取引先等を含めた社内外のステークホルダーの安全を最優先に感染拡大防止の取り組みを継続

## 1. 手元流動性の確保

- 銀行借入等により十分なキャッシュを確保済み  
(前年12月末比で2,500億円程度を積み増し)

## 2. 収益改善施策の実施

- 建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業は需要に見合った生産体制に再構築
- 成長事業へ引き続き積極投資、投資のメリハリを強化し、ポートフォリオの変革を加速
- 経費削減

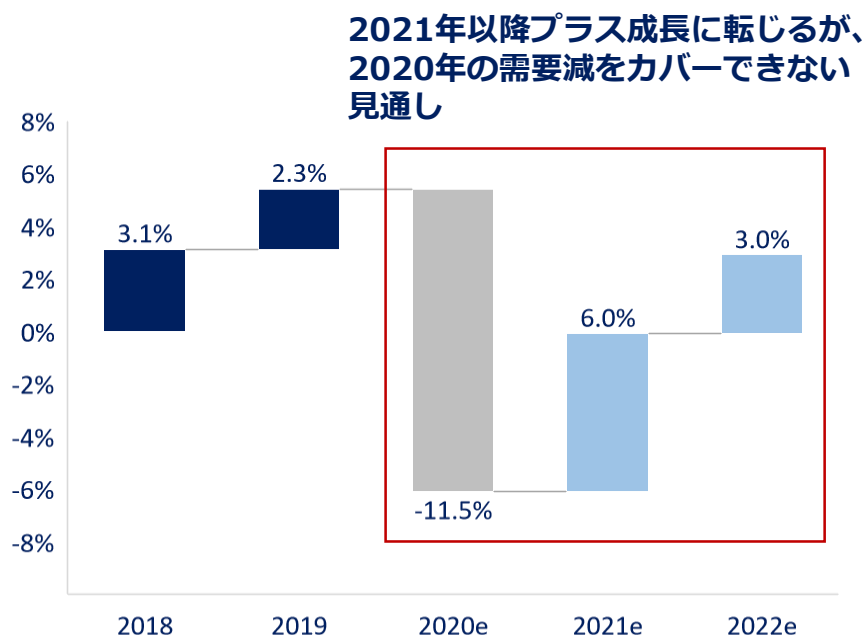
## 3. 業務変革の加速

- あらゆる業務でDXを積極推進し、業務変革を加速

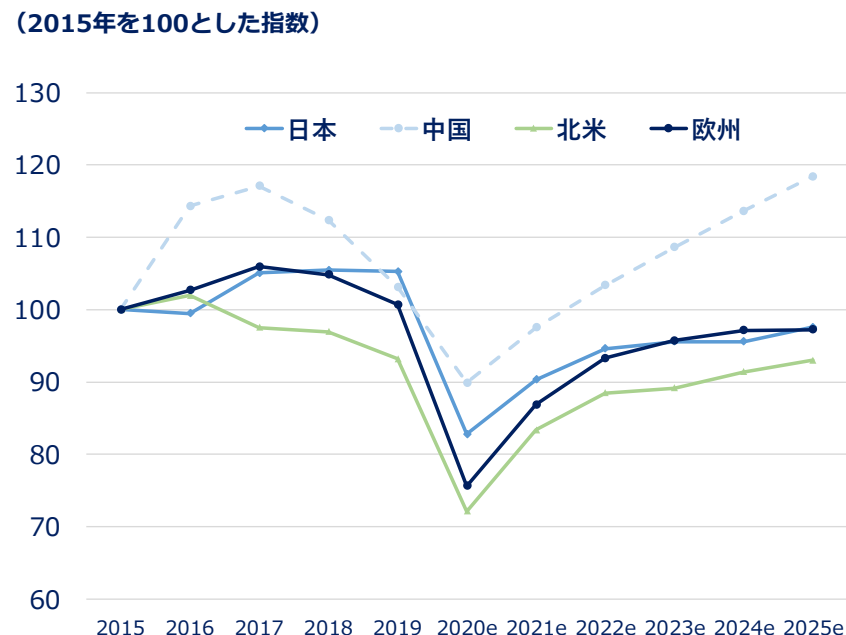
# 収益改善施策の実施

- 市場回復に2-3年かかる見通し
- 各地域で需要に沿った生産体制を再構築し、資産効率を改善する

### 欧州建設市場成長率推移\*1



### 地域別 自動車生産台数推移 (見通し) \*2



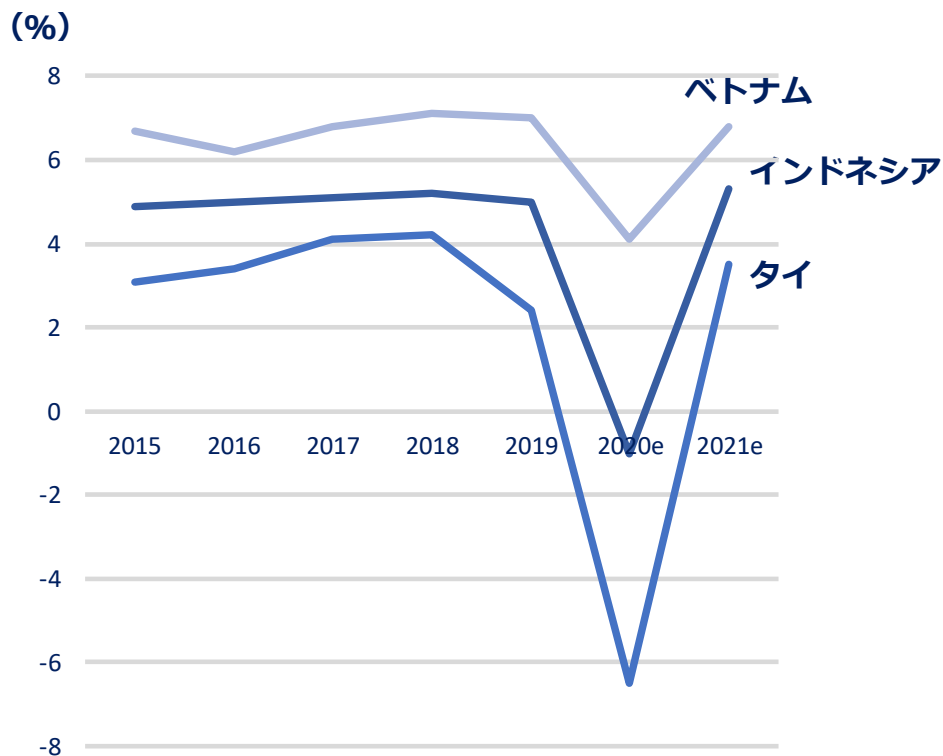
- ・需要に見合った生産体制へのシフト
- ・欧州ガラス事業本社およびチェコ・クデリチェ（自動車用ガラス工場）で約1,000人の人員削減の実施を決定
- ・上記に加えて、経費削減を徹底



# コア事業 ～クロールアルカリ事業～

- クロールアルカリ事業は、コロナ禍により一時的には収益悪化
- コロナ禍収束後、東南アジアは成長軌道に戻り、積極投資による収益増を見込む

## GDP成長率推移



出典：Asian Development Outlook Supplement 2020 (June 2020) - GDP Growthを元に作成

## AGCの強み

### ■ 東南アジア市場で圧倒的シェア

#### 生産能力ベースのシェア\*



- 他社による大型の電解設備増強計画なし
- 塩ビ原料のエチレンは他地域から東南アジアに流入
- アジア域内でのエチレン設備増強および米国のシェールガス由来エチレンやその誘導品の流入等により調達上の優位性は維持・拡大する見込み

● エチレンの生産能力と需要（グローバル）※ （単位：千トン）

	2019年（予想）	2023（予想）
供給能力	186,572	219,550

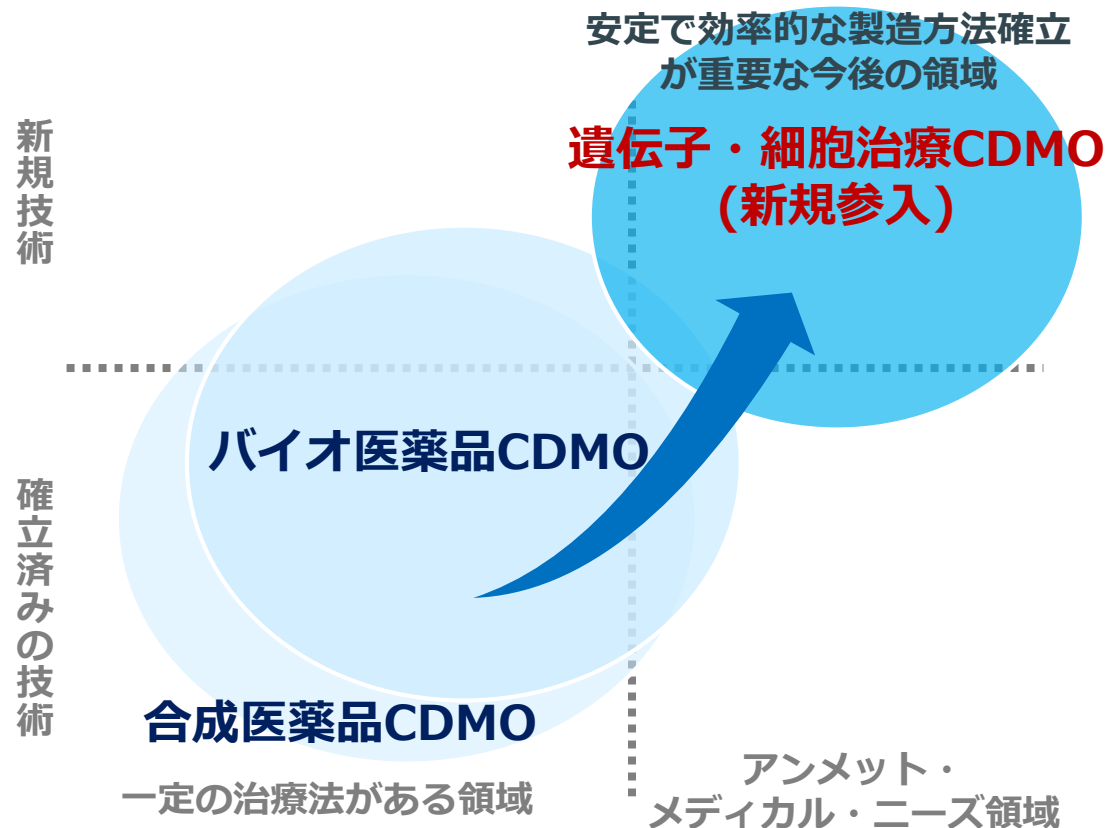
※経済産業省「世界の石油化学製品の今後の需給動向（2019年10月）」を元に作成

\* 生産能力ベースシェア：苛性ソーダは域内に豪州/NZを含まず、塩ビは域内に豪州/NZを含む

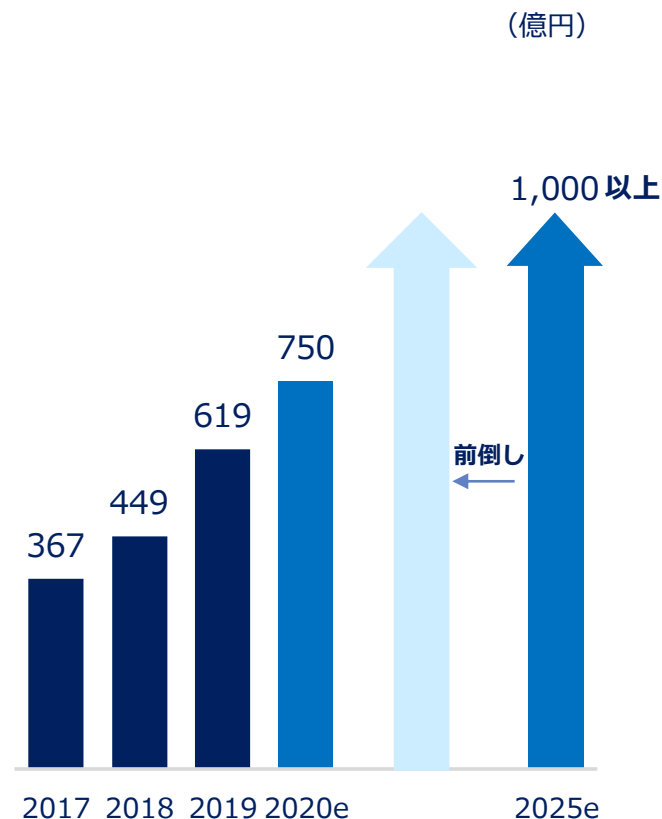
# 戦略事業 ～ライフサイエンス事業～

- M&Aを含めた積極的投資により、当初目標である2025年売上高1,000億円は2-3年前倒しで達成の見込み
- MolMed社（伊）の買収により、CDMO事業領域を遺伝子治療まで拡張
- 新型コロナウイルスの治療薬やワクチン関連の受託が増加

## ライフサイエンス 事業領域



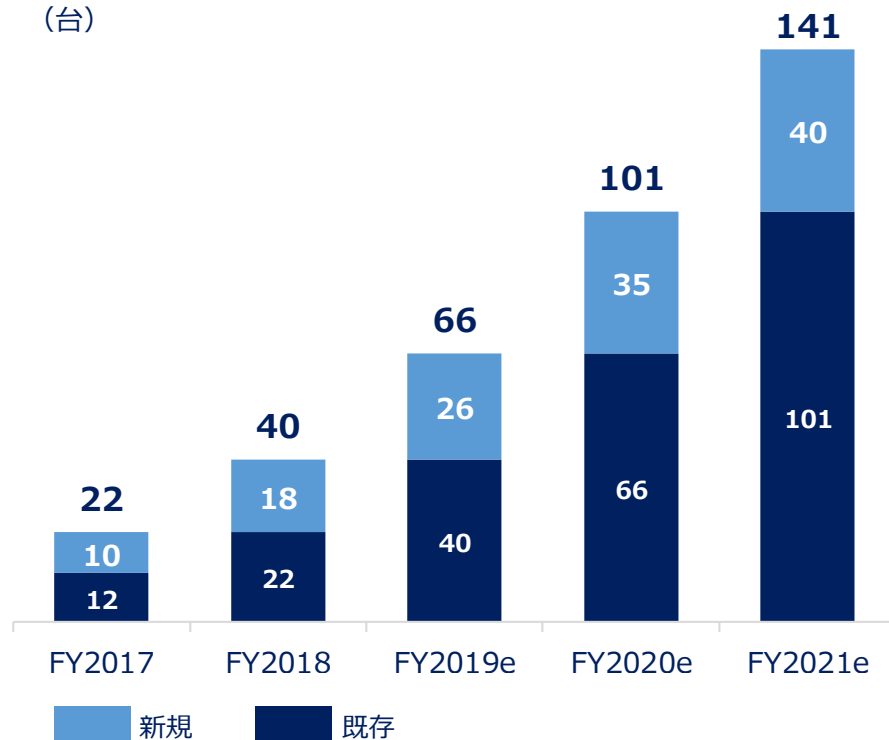
## ライフサイエンス 売上高推移



- EUVマスクブランクスはロジック系に加え、メモリー系の開発も進み、2021年以降に市場が大きく拡大していく見通し
- 需要成長に対応し、EUVマスクブランクの生産能力を増強
- 2025年にシェア 50%、売上高 400億円以上を目指す

## EUV露光機台数 推移

(台)



## EUVマスクブランクス 能力増強



# 業務変革の加速

# 業務変革を加速 ～あらゆる業務でDXを積極推進～

- 全社的にDXを推進するスマートAGC推進部を経営企画本部内に設置（2017年）
- 最新のデジタル技術を活用し、競争力の強化、新たな付加価値の創造を推進

## 研究開発(スマートR&D)

VR・AR、MIを開発現場に導入



- ・素材の開発スピード向上
- ・営業ツールとしても活用開始

## 製造(スマートファクトリー)

AI Q&Aシステムを開発・導入



- ・AIを使ってガラス製造の匠を創る

## 物流(スマート物流)

パレットIoTシステムを導入



- ・輸送用パレットの紛失削減
- ・輸送効率向上

## 基盤業務 高効率化

- ・RPAの導入：2020年末までに10,000時間以上の業務時間削減
- ・電子決裁書システムの導入：決裁フローを大幅に効率化

## 人財育成

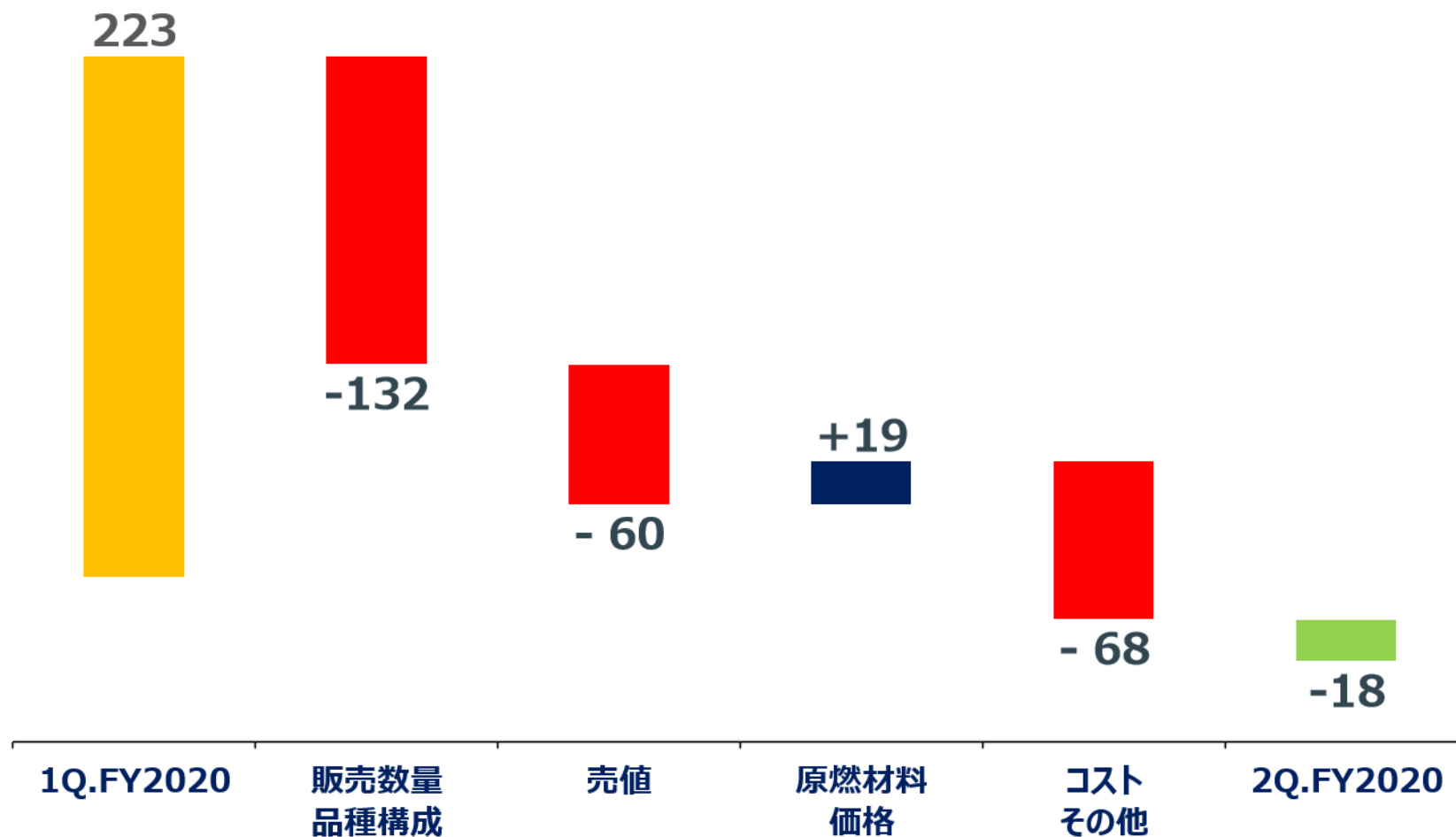
独自のデータサイエンティスト育成プログラム「**Data Science Plus**」を構築  
2022年までにハイレベルなデータサイエンティストを50人育成

# 付属資料

# 営業利益増減要因分析(2Q.FY2020 vs. 1Q.FY2020)

前四半期比 241億円減益

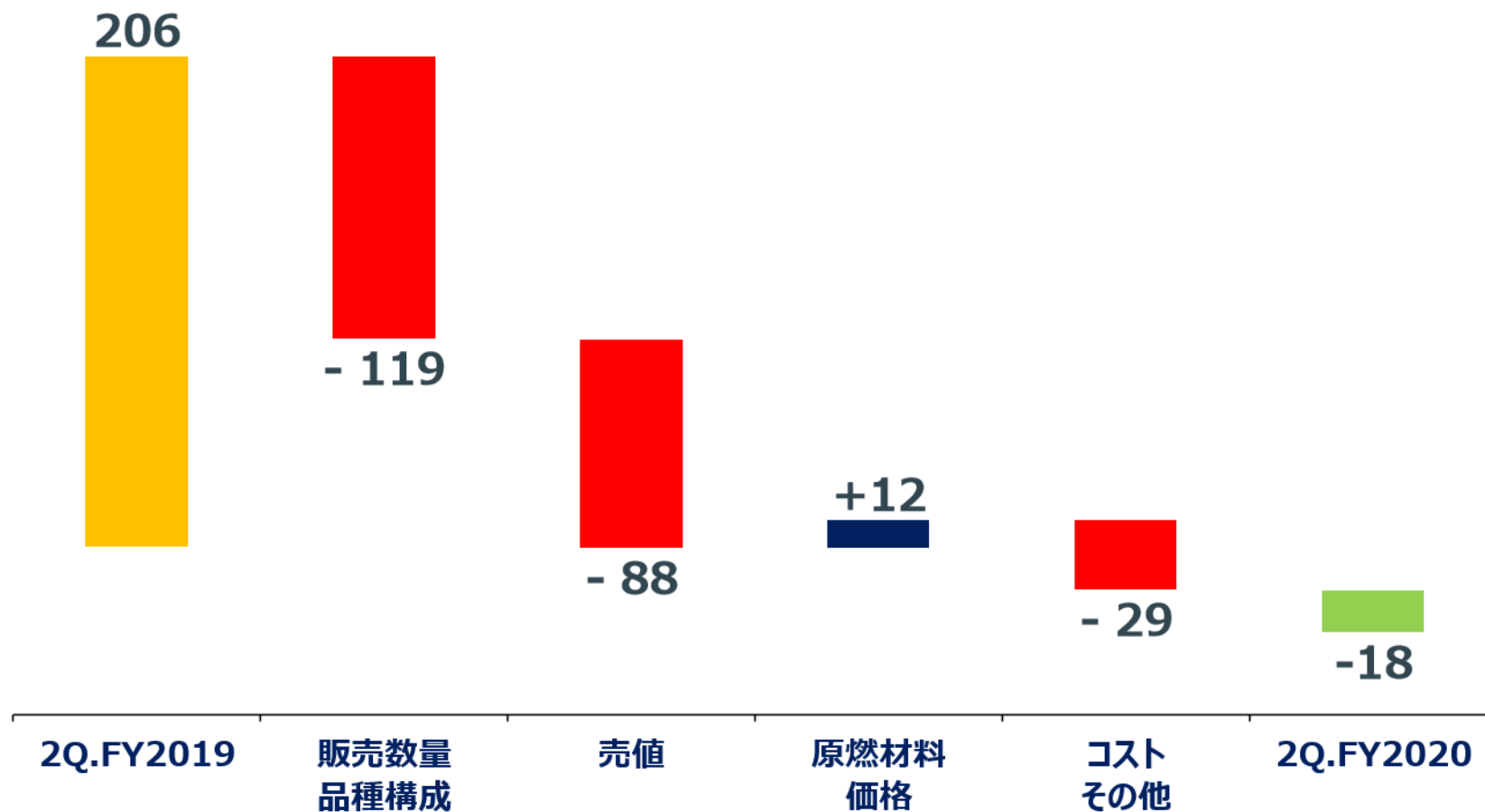
(億円)



# 営業利益増減要因分析(2Q.FY2020 vs. 2Q.FY2019)

前年同期比 224 億円減益

(億円)





# 売上高 セグメント・地域別展開 前年累計比較

(億円)

		日本・ アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計	
ガラス	建築用ガラス	<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>544</b>	<b>196</b>	<b>767</b>	-	<b>1,507</b>
		1-2 Q.FY2019	577	229	941	-	1,747
	自動車ガラス	<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>796</b>	<b>228</b>	<b>400</b>	-	<b>1,423</b>
		1-2 Q.FY2019	1,039	362	596	-	1,997
		<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>1,340</b>	<b>424</b>	<b>1,167</b>	<b>12</b>	<b>2,942</b>
		1-2 Q.FY2019	1,616	590	1,537	9	3,752
電子		<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>1,240</b>	<b>105</b>	<b>6</b>	<b>34</b>	<b>1,386</b>
	1-2 Q.FY2019	1,095	85	4	62	1,246	
化学品		<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>1,703</b>	<b>152</b>	<b>261</b>	<b>8</b>	<b>2,124</b>
	1-2 Q.FY2019	1,894	197	188	7	2,285	
セラミックス・その他		<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>148</b>	-	-	<b>234</b>	<b>382</b>
	1-2 Q.FY2019	169	-	-	235	404	
消去		<b>1-2 Q.FY2020</b>	-	-	-	<b>▲ 289</b>	<b>▲ 289</b>
	1-2 Q.FY2019	-	-	-	▲ 312	▲ 312	
合計		<b>1-2 Q.FY2020</b>	<b>4,431</b>	<b>682</b>	<b>1,433</b>	-	<b>6,545</b>
	1-2 Q.FY2019	4,775	871	1,729	-	7,375	

# 売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

		日本・ アジア	アメリカ	ヨーロッパ	セグメント間	合計	
ガラス	建築用ガラス	<b>2 Q.FY2020</b>	<b>253</b>	<b>97</b>	<b>355</b>	-	<b>706</b>
		2 Q.FY2019	293	117	479	-	890
	自動車ガラス	<b>2 Q.FY2020</b>	<b>331</b>	<b>68</b>	<b>136</b>	-	<b>534</b>
		2 Q.FY2019	511	186	298	-	996
		<b>2 Q.FY2020</b>	<b>584</b>	<b>165</b>	<b>491</b>	<b>8</b>	<b>1,249</b>
		2 Q.FY2019	805	303	777	5	1,890
電子		<b>2 Q.FY2020</b>	<b>620</b>	<b>57</b>	<b>3</b>	<b>13</b>	<b>693</b>
	2 Q.FY2019	579	44	2	26	652	
化学品		<b>2 Q.FY2020</b>	<b>780</b>	<b>70</b>	<b>129</b>	<b>5</b>	<b>983</b>
	2 Q.FY2019	956	95	104	4	1,158	
セラミックス・その他		<b>2 Q.FY2020</b>	<b>71</b>	-	-	<b>113</b>	<b>185</b>
	2 Q.FY2019	93	-	-	126	218	
消去		<b>2 Q.FY2020</b>	-	-	-	<b>-139</b>	<b>-139</b>
	2 Q.FY2019	-	-	-	-160	-160	
合計		<b>2 Q.FY2020</b>	<b>2,055</b>	<b>292</b>	<b>623</b>	-	<b>2,970</b>
	2 Q.FY2019	2,433	443	882	-	3,759	

(億円)

ガラス	2Q.18	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20
<b>売上高</b>	1,934	1,868	1,953	1,861	1,890	1,840	1,837	1,693	1,249
建築用ガラス	879	878	964	857	890	875	905	801	706
自動車用ガラス	1,052	987	985	1,001	996	963	923	889	534
(セグメント間)	3	3	4	4	5	3	9	3	8
<b>営業利益</b>	78	29	44	35	39	23	▲ 4	▲ 26	▲ 182

電子	2Q.18	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20
<b>売上高</b>	603	646	670	594	652	761	760	693	693
ディスプレイ	424	431	436	398	441	449	460	433	433
電子部材	150	184	199	160	185	283	276	238	247
(セグメント間)	29	30	34	36	26	28	24	22	13
<b>営業利益</b>	41	61	78	25	35	109	87	89	85

化学品	2Q.18	3Q.18	4Q.18	1Q.19	2Q.19	3Q.19	4Q.19	1Q.20	2Q.20
<b>売上高</b>	1,150	1,252	1,295	1,127	1,158	1,197	1,275	1,142	983
クローラルカリ・ウレタン	744	848	827	705	710	745	768	695	559
フッ素・スペシャリティ	285	304	328	287	299	302	311	283	247
ライフサイエンス	107	96	136	132	146	147	193	160	173
(セグメント間)	13	3	3	3	4	4	3	4	5
<b>営業利益</b>	167	166	209	144	118	177	191	151	75

## 数量・価格動向

				2019				2020			
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
<b>前年同四半期比 (YoY)</b>											
ガラス	建築用ガラス (AGC)	日ア	数量	-1割弱	横ばい	-数%	横ばい	-数%	-1割弱		
			価格(日)	+1桁半ば	+1桁半ば	微増	微増	+数%	+1桁半ば		
		北米	数量	-数%	+1桁半ば	+数%	-1割弱	-1割弱	-約2割		
			価格	横ばい	-数%	-1桁半ば	-1桁半ば	-1割弱	-1桁半ば		
		欧州	数量	微増	+数%	微減	微減	横ばい	-約2割		
			価格	-数%	微減	-数%	-1割弱	-1割強	-2割強		
	自動車用生産台数 (IHS Markit 7/16データより)	日本	数量	+0%	+5%	+5%	-10%	-7%	-47%		
			北米	数量	-3%	-3%	-1%	-9%	-11%	-69%	
				欧州・ロシア	数量	-4%	-7%	+1%	-5%	-17%	-62%
	電子	ディスプレイパネル需要* (Omdia社)	グローバル	面積	+6%	+6%	+3%	+4%	-0%	-0%	
<b>市況実績値</b>											
化学品	東南アジアクロアリ (Bloombergより)	苛性ソーダ	価格	USD/MT	421	381	339	311	290	290	
			PVC	価格	USD/MT	845	880	870	840	805	790
			エチレン	価格	USD/MT	935	675	790	680	500	800

\*Source : Omdia, display-long-term-demand-forecast-tracker-pivot-q1-2020.

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

		IFRS				
		15/12	16/12	17/12	18/12	19/12
売上高	百万円	1,326,293	1,282,570	1,463,532	1,522,904	1,518,039
営業利益	百万円	71,172	96,292	119,646	120,555	101,624
営業利益率	%	5.4	7.5	8.2	7.9	6.7
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	42,906	47,438	69,225	89,593	44,434
自己資本当期純利益率 (ROE) *1	%	3.9%	4.3%	6.1%	7.7%	3.9%
総資産営業利益率 (ROA) *2	%	3.5%	4.8%	5.7%	5.4%	4.4%
自己資本比率	%	55%	55%	53%	51%	50%
D/E (有利子負債・純資産比率)	倍	0.40	0.37	0.38	0.43	0.47
営業CF/有利子負債	倍	0.40	0.47	0.42	0.35	0.32
一株当たり当期純利益 (EPS) *3	円	185.60	205.14	302.12	399.51	200.85
一株当たり配当金	円	90	90	105	115	120
EBITDA *4	百万円	228,381	195,767	249,880	259,425	231,857
為替レート (期中平均)	円/ドル	121.05	108.84	112.19	110.43	109.05
	円/ユーロ	134.31	120.33	126.66	130.42	122.07

\*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計 (期中平均)

\*2 営業利益/総資産 (期中平均)

\*3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

\*4 EBITDA (支払利息・税金・減価償却費控除前利益) = 税引前利益 + 減価償却費 + 支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。 [https://www.agc.com/ir/pdf/data\\_all.pdf](https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf)

発表日	内容
2月4日	CDPから水リスクへの取り組みが評価され最高評価「Water Security A List 2019」に選定
3月2日	「健康経営優良法人2020ホワイト500」に認定
3月3日	女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」に選定
3月12日	「パレットIoTシステム」を導入し物流を効率化
3月17日	遺伝子・細胞治療に取り組むMolecular Medicine S.p.A.の株式公開買付を決定
4月7日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月14日	AdaptVac社から新型コロナウイルス向けワクチンの製造を受託
5月14日	A G C が製造を受託するCytoDyn社の新型コロナウイルス向け治療薬候補「レロンリマブ」が、米国での臨床試験進行
5月18日	連結業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ
5月21日	タカラバイオから新型コロナウイルスDNAワクチン中間体の製造を受託
6月2日	米国バイオ医薬品原薬製造工場を買収
6月3日	『窓を基地局化するガラスアンテナ』5 G 対応の開発が完了
6月4日	Novavaxから新型コロナウイルス感染症ワクチン候補アジュバントの製造を受託
7月2日	FRONTEOと共同でAI Q&Aシステム「匠KIBIT」を開発
7月20日	Molecular Partners AGから新型コロナウイルス感染症向け治療薬候補「MP0420」の製造を受託
7月21日	電子決裁書システムを導入
7月28日	Molecular Medicine S.p.A.の株式公開買付完了へ



Your Dreams, Our Challenge

**END**

**予測に関する注意事項：**

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。